

Lead

All roads lead to the future リード



コミュニケーションペーパー
2016 Autumn 秋号 **¥0**
TAKE FREE



〈特集〉

謎に包まれる身近な植物
そのコケの正体を
明らかにせよ!

年に1度の交流イベント
ホームカミングデー

ぼくらのキャンパスライフ
天文系サークル
星の会

キラ星高知大生
デフバレー男子
日本代表

Action! 地域×高知大学
国際連携推進センター
地域交流事業

高知大学ニュース

高知大学で開催するイベントをご紹介します。

イベントインフォメーション Event information 2016 Autumn 秋号

10月29日(土)・10月30日(日) 朝倉キャンパス「黒潮祭」

テーマは「華彩(かさ)」。雨の中でカサをさせば濡れないように、日頃色んなことがあってもこの黒潮祭の日は思い切り楽しみ、華やかに彩りましょう!今年も沢山のイベントを企画していますので、ぜひお越しください!

時間 29日(土)…10:00～19:00
30日(日)…10:00～17:30
場所 高知大学朝倉キャンパス
TEL:088-844-8149



10月30日(日)〈第7回〉 ホームカミングデー

久しぶりに母校を訪れてみませんか?在学生・教員との交流をはじめ、各学部で様々なイベントや記念講演を行います。皆様のお越しをお待ちしております!



〈記念講演〉

講師 高知大学文理学部卒
元厚生労働事務次官
村木 厚子氏

演題 「高知家総活躍プラン!」
【場所】高知大学朝倉キャンパス

※詳しくは「高知大学総務部総務課」まで TEL.088-844-8116

P3・P4
ホームカミング特集を
ご覧ください!

11月3日(木・祝) 物部キャンパス「一日公開」

地域の特産品、農作物の販売や人気のトレーラー体験コーナーをはじめ、大学を身近に感じられる催しが一杯です。お誘い合せの上、是非お越しください。

時間 9:00～15:00
場所 高知大学物部キャンパス TEL:088-844-8149



11月23日(水・祝) 高知大学理工学部キックオフシンポジウム 「平成29年4月 理工学部誕生!」

魅力ある理工学教育、多様な人材育成プラン、そして未来の高知への確かな貢献を目指して。

時間 14:00～16:00(13:30開場)
場所 高知県立高知追手前高等学校芸術ホール



2016年度 定期公演

- 11月23日(水) 高知大学吹奏楽団**
第34回 高知大学吹奏楽団定期演奏会
時間 開場17:00/開演17:30 場所 高知県民文化ホール(オレンジ)
- 12月3日(土) 奇術部 Trick or Treat**
第16回 マジシャンズパーティー ～Happy UnBirthday～
時間 開場18:30/開演19:00 場所 高知県民文化ホール(グリーン)
- 12月17日(土) 高知大学演劇研究会**
第45回 高知大学演劇研究会定期公演
時間 開場17:30/開演18:00 場所 蛸蔵
- 12月17日(土) 高知大学合唱団**
第45回 高知大学合唱団定期演奏会
時間 開場13:00/開演13:30 場所 高知市春野文化ホールピアステージ

平成29年度 高知大学入試案内

- 推薦入試 I (出願期間)**
平成28年11月1日(火)～4日(金)
- 人教** (教育学部) **理** (理工学部) **医** (医学部) **農** (農学部) **地** (地域協働学部) **さ** (土佐さきがけプログラム)
- 推薦入試 II (出願期間)**
平成28年11月 1日(火)～4日(金) **医** (医) **農** (農)
- AO入試 II (出願期間)**
平成29年1月17日(火)～20日(金) **教** (幼児教育、教育学部・教科教育) **農** (農)
- 一般入試 前期日程・後期日程 (出願期間)**
平成29年1月23日(月)～2月1日(水)

- 人 人文社会科学部
- 教 教育学部
- 理 理工学部
- 医 医学部
- 農 農学部
- 地 地域協働学部
- さ 土佐さきがけプログラム

11月26日(土)・27日(日) 〈第56回〉室戸貫歩開催!

高知市の朝倉キャンパスから室戸岬まで約90km。夜を徹して歩こう!

メルマガ配信中!
月2回配信(第2・4金曜日)

高知大学からメルマガを配信しています。大学の「入試情報」から「あれこれ(これは面白い)」まで!!
登録はこちら <http://daigaku.jp/kochi-u>



●お問い合わせ先 皆様からのご意見・ご感想をお待ちしております。



高知大学
Kochi University

高知大学総務課
高知大学 検索
<http://www.kochi-u.ac.jp/>

TEL.088-844-8643 FAX.088-844-8033
〒780-8520 高知市曙町2-5-1 E-mail:kh13@kochi-u.ac.jp

高知大学の最新情報を伝えたい
**THE こうち
ユニバーシティ CLUB**

FM 高知 毎週日曜日 放送中
81.6MHz (9:30～9:55)

高知大学のHPから過去放送分も視聴できます!
http://www.kochi-u.ac.jp/outline/kouhou/radio_fm_kochi/
高知大学の教育、研究、地域貢献等のホットな情報をお届けします。

スポンサー企業
高知銀行/ソフテック



やや地味なイメージだったコケが、最近、ちょっとしたブームです。そこで、植物分類学が専門で、その魅力をよく知る松井透教授に、研究の醍醐味をお聞きしました。

人類が繁栄したのは、コケのおかげ!?

「コケは初めて本格的に上陸した生物だといわれています。その後、陸上で生物は多様化し、爆発的な進化が起きました。いま私たちがここにいるのは、コケが第一歩を記してくれたおかげなんです」



研究対象のコケを大いに愛する松井先生がこう語ります。ただし、学生時代コケの研究を行っている植物分類学研究室に入る前は、「コケって薄暗いところに生えている不気味な生きもの」と思っていたとか。その後、研究室の一員になってから、コケに対する見方が変わったそうです。

究は、フィールドでの採集から始まります。研究室に戻ると、採ってきたコケを細かく切り刻んで、解剖し、断面などの構造を顕微鏡で観察。種としての特徴を見出し、正確に名前をつけていきます。

「研究室に入ったばかりの頃、よく名前をつけ間違えていました。適切な解剖ができないため、コケの特徴がよくわからなかったんです。ところが、同じ標本でも先生が解剖するとまったく違って見えて、特徴がよくわかる。非常に微細な世界のうえに、専門知識はもちろん、職人技も要求されるんですね。ああ、これは面白いなと、コケの研究の深みにはまっています」

分類学は推理小説のアリバイ崩し?

コケは世界中に約2万種、日本には約1700種が生育しています。しかし、コケに関して、わからないことはまだまだいっぱいあるそうです。いまも新種がたびたび報告され、松井先生もこれまでに3種の新種を発見しています。

いろいろなものを調査するうちに、たまたま変わったものが見つかり、その結果、新種として報告されるのが一般的ですね」

松井先生が植物分類学の醍醐味だと考えているのは、これまでの知見をより正確に把握する「分類学的再検討」を行うことだそうです。例えば、図鑑には別々の種として載っているのに、いざ標本を観察してみると種の違いとされている特徴で判別できないケース。生物は地域により変異することも多いので、種の識別に用いられていた特徴が変異の幅に含まれてしまうこともあります。

「それぞれのコケの特徴を突き合わせて、一つ一つ、同じものであると証明していくんです。言うならば、推理小説のアリバイ崩しのようなイメージ。まさにこれこそ分類学という感じで、とても面白いですよ」

こうしたコケの研究をするうえで、絶好の土地が高知県。温暖多雨な気候が、コケの生育に適しているからです。しかも、高知県は山が多いので、高知大学から車で1時間も走れば、コケの豊富な森まで行けます。「高知はコケの研究者には有名なフィールドで、日本中から採集にやってくるんです。こんないい場所まで研究させてもらえるのは幸せですね」と松井先生は語ります。



【特集】謎に包まれる身近な植物

そのコケの正体を明らかにせよ!

コケに潜む最強生物、クマムシの研究も

松井先生は研究者として、もう一つの顔があります。それは高温・高圧・高放射線下でも平気なクマムシの研究。「クマムシは人気があるので、研究室に学生を呼ぶための、客寄せパンダになってしまいました」と松井先生は笑います。コケとクマムシは関係があるのでしょうか?

「クマムシの主な生息場所はコケなんです。顕微鏡でコケを観察していると、時々、そのそと這い出してくるんですよ。あくまでもコケを中心にして、それにクマムシを絡めた研究なら、植物分類学の研究室としてもおかしくはないでしょう」

松井先生はコケとクマムシの関係性について、高知県の広域を調査。従来の報告では、クマムシの7割が樹皮につくコケを生息場所とし、残り3割が岩の上などのコケにいたるとされていました。ところが、松井先生の調査では、樹皮と岩のコケがそれぞれ半々程度。これまでとは違う調査結果は、クマムシ

活動状態



【写真/ニセトゲクマムシ】

乾燥状態



環境に合わせて形状が変化!

身近な存在ですが解明されていないことがたくさんあるんですよ!

教育研究部 自然科学系 理学部門 教授

まっい 松井 透

兵庫県出身。高知大学理学部生物学科卒業。広島大学大学院理学研究科博士課程前期植物学専攻修了。「誰も知らないことを真っ先に知ることができる。これが科学の醍醐味です。教科書の書き換えもできます。すごく面白いじゃないですか!」



学内でも観察できる種をちょっと紹介!

身近なコケに住まう驚異の生物

【クマムシ類】

「緩歩動物門」に属する小さな生物。周りが乾燥すると、体をギュッと縮めて「樽」という形になり、仮死状態の「乾眠」に入ります。松井先生は「高知大学キャンパス内のクマムシ」というホームページを作成し、様々な種の写真をアップしているので、ぜひチェックを! 【写真/ニセトゲクマムシ】



【ミノゴケ(蘚類)】

タチヒダゴケ科。東アジアに広く分布します。茎と葉が明瞭な「茎葉体」の種です。街路樹や石垣などにもよく着生しています。写真の毛むくじらな部分は「帽」と呼ばれます。この部分が「義」に似ています。学内ではナンキンハゼ等の幹に見られます。

コケ植物(蘚苔類)は蘚類・苔類・ツノゴケ類に分けられます

【ジャゴケ(苔類)】

ジャゴケ科。北半球に広く分布します。茎と葉が分化していない「葉状体」の種です。湿った土や岩の上に生育します。葉状体の表面がまるで蛇のウロコのように見えます。葉状体を強く押すと独特な強い臭いを発します。共通教育棟2号館北側などの土上で見られます。



【ニワツノゴケ(ツノゴケ類)】

ツノゴケ科。世界に広く分布します。茎と葉が分化しない「葉状体」から角のような胞子体が伸び出します。ツノゴケ類は世界でも約400種、日本からは17種が報告されている小さなグループです。地域協働学部棟玄関近くの土上で見られます。



黒潮祭と同時開催! 年1度の交流イベント!

高知大学

ホームカミングデー

先輩! おかえりなさい!



高知大学の今昔

久々の母校ではきっと当時との変化に驚かれるはず! 懐かしのキャンパスをぜひ実際に見に来てくださいね!

まだ体育館で卒業式をしていました(昭和53年)

空戸真歩スタート風景(昭和57年)

昭和40年頃の高知大学周辺の航空写真

学生発表会で池に飛び込む(昭和57年)

学生会館から見た正門(昭和40年)

旧附属図書館前(現メディアの森)にあった美術作品(昭和40年)

メディアの森/関連企画
紺碧の空に消えたいのち
~木村久夫没後70年記念展示~
・10/27(木)~11/2(水)
・高知大学学術情報基盤図書館
メディアの森1F
入場無料

お茶の
お点前



一般の方も
参加OK



よさこい
演舞



ホームカミングデーとは?
今年で7回目となる、卒業生の皆様に懐かしい学び舎で恩師や同窓生と昔話を花を咲かせながら楽しい時間を過ごしてもらおう。本学卒業生による記念講演、各学部の取組紹介や在学生によるイベント、懐かしの高知大学の写真展示、大学生協の懐かしメニュー、懇親会などを企画しています。

今年のテーマは
「絆 ふれあい
~過去、現在、未来~」

第7回ホームカミングデーのご案内

10
/
30
9:00~17:00
(SUN)

教員・在学生との交流や、裏千家茶道部によるお茶会、奇術部によるマジックショー、よさこいサークルの演舞、防災すけっと隊の活動紹介など。記念講演は、元厚生労働事務次官の村木厚子氏に高知大学への期待などについてお話しいただきます。

開催場所	高知大学朝倉キャンパス・岡豊キャンパス
主な企画	(午前) 9:00~12:30 / 各学部のイベント (午後) 13:40~14:15 / 記念式典、3世代表彰 【朝倉キャンパス212番教室】 14:30~15:30 / 記念講演 【朝倉キャンパス212番教室】 16:00~17:00 / 懇親会 【朝倉キャンパス学生会館 カフェテリア】

学部イベント紹介

人文社会科学部	・ゼミ紹介「人文学部から人文社会科学部へ」 場所/人文社会科学部棟5階 第1会議室 時間/10:00~12:00	農林海洋科学部	・卒業生と在校生及び教員との交流会 場所/学生会館2階 談話室 時間/10:00~12:00 ・野菜、果物、花やお米などの生産物販売 場所/学生会館前 時間/10:00~14:00
教育学部	・美術の学生、教員、卒業生有志による展覧会 場所/教育学部1号館ヒロティ 時間/10:00~16:30 ・附属特別支援学校 hocco sweets(ホッコスイーツ) ドイツ菓子販売 場所/学生会館前 時間/12:00~14:00	地域協働学部	・地域協働マルシェ 実習先の地域の皆さんと一緒に学生が地域の特産品を販売 場所/赤レンガ広場 時間/10:00~16:30
理学部	・在学生による報告と卒業生との交流「理学部から理工学部へ」 場所/理学部2号館6階 第1会議室 時間/10:30~12:30 ・サイエンスギャラリー(標本展示) 場所/理学部1号館1階 時間/10:00~16:30	医学部	・医学科/「総合診療ドクターGin 高知」(高知臨床推論ケースカンファレンス) 場所/レジデントハウス1階 スキルスラボ 時間/9:00~12:00 岡豊キャンパスで開催します ・看護学部/おかえりおしゃべり会 場所/看護学科棟1階 第2講義室 時間/10:00~12:00

懐かしの母校を
久しぶりに堪能して
みませんか?

当日は写真で
当手を振り返る
パンフレットを
配布します

もしも、
校内散策で
疲れたら...

大学生協のカフェテリアやベーカリーカフェで一休みしてみは?
学生協のカフェテリアでは当日、今人気のメニューはもちろん、20年前のメニューを当時の価格で提供!さらにベーカリーカフェではパンとコーヒーも販売しています。
・セイロンカレー 210円 ・味噌カツラーメン 210円
・トリボンからあげ 210円

キラ★星 高知大生

静寂のコートで、世界と戦う

「デフバレー」日本代表主将、狩野拓也さん(医学部6年)

「難聴だからこそ、世界大会出場の チャンスを得た!」

日本代表選手として国際大会に出場!

今年7月、アメリカ・ワシントンのバレーコート。高知大学医学部6年の狩野拓也さんは、日本代表チームの主将として、ネットをはさんで外国人選手と向かい合っていました。

「初めての国際試合で緊張しました。相手はみんな身長が2m以上で、ネットを挟んで向かい合うと、僕の視線は相手の胸あたり(笑)。海外選手を想定した練習を重ねてきましたが、それを上回るパワーと高さを感じました」

狩野さんが出場した競技は、聴覚障害者によるバレーボール「デフバレー」。生まれながら聴覚に障害を持ち、補聴器をつけている狩野さんは、2年前にこの競技に出会い、日本代表選手に選ばれました。そしてこの夏、世界選手権に主将として出場。結果は出場8カ国中6位で、この結果を受け、来年、トルコで開催されるデフリンピック*への出場が検討されています。

デフバレーは、健常者の6人制バレーとルールやコートの広さは一緒。ただ、試合中は補聴器を外さなければならず、選手たちは音のないコートの中でプレーをすることになります。

「バレーボールではだれかがボールを受けるか、アタックは誰が打つかなど合図の音が大切です。しかし、デフバレーではそれができない。当然、ぶつかり合いやお見合いが起こってし



デフバレー大会国際試合
試合前の国歌斉唱



医学部6年 狩野拓也さん

広島県生まれ。学業などは支障がなかったという聴覚障害も、中学・高校時代は心の問題に悩んだと言う。「周囲の人が、ぼくが聞こえないのをいいことに悪口を言っているのではないか、という被害妄想にとらわれました。思春期だったからでしょう。でも、両親が絶大な愛を注いでくれたので、それを支えに乗り切れました」



デフバレー大会国際試合 アタックを打つ狩野さん

まいます。そこで僕たちの場合、さまざまなボールの動きを想定して、互いの動きを身につける練習をしています」

デフバレーに出会う以前に、中学生の時からバレーボールを続けている狩野さん。現在も大学のバレー部に所属し、高知県の国体選手として活躍しています。しかし大学入学当初、バレーにそれほどやる気があったわけではなかったとか。それを変えたのがデフバレーだったと言います。

「デフバレーの監督からいろいろな技術や考え方を教えてもらったことで、普通のバレーにも気合が入りました。それが、国体選手に選んでいただいたことにもつながります」

*聴覚障害者による世界規模のスポーツ大会。聴覚障害者は、他の障害と比べて身体能力への影響が少ないなどの理由から、パラリンピックへの出場が認められていないため、独自で開催している。

バレーの練習に打ち込む日々 一方、死に物狂いで勉強も

現在、医学部6年生の狩野さん。医師を目指すようになったのは中学3年生の時。骨折の治療をしてくれた医師との出会いがきっかけです。

「僕の障害は補聴器をつければ人の話が聞き取れるとはいえ、限界もあります。人のサポートがないとどうしても生きていけないので、恩返しのような意味から、人の役に立つ仕事に就きたいと思っていました。人の命を救える医者はい、いい職業だと感じました」

しかし、バレーに打ち込む一方で、医学部の受験や医学部での学びをどう両立してきたのでしょうか。

「常に勉強をしているというよりも、例えばテスト期間の1カ月間は死に物狂いで勉強するという感じです。ただ、もともと医学がやりたくて医学部に来ているし、人体について学ぶのは楽しいので苦にはなりません」

将来は放射線科医を目指しているという狩野さん。現在は、来年2月に行われる国家試験を目指して猛勉強中です。最後に聞いてみました。聴覚障害が自分にとってプラスになったことはありますか？

「デフバレーに参加したことで、世界を相手にバレーができる機会に恵まれました。耳の聞こえない人と出会えたのもプラスです。とても素敵な人ばかりです。あとは、自分が弱い人間だとわかっているので、人に優しくなれますね。耳が聞こえていたら、僕はもっと嫌な奴になっていたかもしれません(笑)」



デフバレーを
もっとたくさんの人に
知ってほしいです!



高知の素晴らしい夜空に 触れられる

今年春の室戸岬での合宿。無数の星がきらめく夜空を見上げ、「天文系サークル星の会」の会長、野々宮亜記さん(理学部3年)は心から思いました。ああ、「星の会」に入って良かった……。

「毎年春と夏、国立室戸青少年自然の家」で合宿をしています。室戸岬は周辺に人家がほとんどなく、夜空がすくなくきれいなんです。特に今年の春はよく晴れて、こんな星空は初めて見たって言う人もいましたね」と野々宮さんは嬉しそうに話します。副会長の堤京汰朗さん(人文学部2年)も、「空一面に星がびっしり

「星の会」ではいろいろなイベントを行っています。毎年5月に行っているのは「桂浜貫歩」。午後9時頃に高知大学朝倉キャンパスをスタートし、途中で時々、星空を観察しながら桂浜を目指します。到着するのは午前3時〜5時。「星空を見上げたり、浜でそのまま寝たりと、夜明けに向かう桂浜を満喫します」と堤さんが明かします。

高知ならではの素晴らしい夜空に触れられる「星の会」。毎週金曜の夜、部会と勉強会を開くのが活動の基本です。星の好きな人、神話に興味のある人、独特の「ゆるい」雰囲気が入った人など、入会理由はさまざまとか。

「星の会」ではいろいろなイベントを行っています。毎年5月に行っているのは「桂浜貫歩」。午後9時頃に高知大学朝倉キャンパスをスタートし、途中で時々、星空を観察しながら桂浜を目指します。到着するのは午前3時〜5時。「星空を見上げたり、浜でそのまま寝たりと、夜明けに向かう桂浜を満喫します」と堤さんが明かします。



高知は星空も最高です!!

▲夏合宿での観察風景
◀上弦の月

ぼくらの キャンパスライフ

高知大生の今にエール!



高知の星空は すごすぎる!

天文系サークル 星の会

室戸での牛飼座付近の
北の空(比較明合成)

星空を通して 地域や子ども達と交流

地域の子ともたちとの交流が多いのも、星の会の特徴です。毎年8月上旬、星空に親しむ週間「STAR WEEK」に関連し、朝倉キャンパスで独自のイベントを開催。「星にまつわるクイズ大会や星空ツアー、夜空をモチーフにした作品展示など、内容は盛りだくさんです」と野々宮さん。

恒例行事としては、毎年11月に高知工科大学の天文系サークルと一緒に、枝川小学校で行うイベントがあります。ここでは星の模型の工作や、プラネタリウムの上映会などを行っているとのこと。他にも子ども向けのイベントを手伝うことも多く、「国立室戸青少年自然の家」や、「芸西天文学習館」のサークル「高知こどもアストロクラブ」などの行事に参加しています。



会長 野々宮亜記さん
(理学部3年)



副会長 堤京汰朗さん
(人文学部2年)

最後に、この広報誌「Lead」が発行される秋から冬にかけて、夜空で注目したい星は何?と質問。「秋は北の空にW字型に並ぶカシオペア座がきれいです。冬は南西の空のシリウスですね。夜空で一番明るいから見つけやすいですよ」とお二人。晴れた日の夜、空を見上げてみませんか?

天文系サークル 星の会

メンバーは約40人。美しい星空を満喫でき、地域との交流も楽しめる。11月の学園祭「黒潮祭」にももちろん参加し、星空の写真の展示・販売などを行う。加入に当たっては、理系文系、年齢、地球外生命体か否かは問わない。星に関する知識がなくても歓迎で、他サークルとの掛け持ちも全然OKとのこと。

国際交流は、異文化理解やグローバル感覚の育成、多角的な価値観の獲得など、さまざまなメリットを生み出します。しかし、一地方都市である高知では、そういう機会にはなかなか恵まれません。そこで高知大学の国際連携推進センターでは、留学生と地域との交流を推進し、県民が海外と触れる活動を行っています。

開かれた大学として 地域と留学生を結ぶ

高知大学では現在、世界20か国から来た年間約230名の留学生が学んでいます。彼ら留学生の受け入れを行っているのが、国際連携推進センターです。高知大学の中で、国際的な教育と研究、国際協力プロジェクトの企画と留学生の受け入れ、派遣促進を担当しています。

「センターでは、高知県内の地域社会の皆さんに国際社会の風を感じていただけるような活動を行っています。そのひとつが「カルチャーカフェ」です」と話すのは、センターの国際プロジェクト部門専任教員のエバガルシア先生です。

カルチャーカフェは、ほぼ毎月1回行われる外国人留学生と日本人学生の交流イベント。外国人留学生が自国を英語で紹介し、学生同士の交流を図ります。2013年にスタートし、これまでに13回開催。ブルガリア、スウェーデン、フィリピン、ネパール、エチオピア、インド、アルゼンチン、イランなど紹介した国は様々。逆に、日本人学生が日本文化を英語で紹介したこともあります。

「カルチャーカフェは、日本人学生の英語力の向上を目的に始まった事業です。英語はいろいろな国で共通語や母国語として使われています。しかし、残念ながら、日本の英語教育は成果が十分に出ていないことが問題となっています。そこで、楽しみながら英語を使える機会を増やすことになればと考えました。カルチャーカフェはその名の通り、紹介する国にちなんだ飲み物やお菓子を用意しています。異文化を言葉だけでなく、五感で感じられるように工夫しているのです」



オーストラリア発祥のデザート「ラミントン」▶



プレゼンテーションをした
マット・ワイズ (Matthew Wise) さん



カルチャーカフェに参加した
松浦莉奈子さん (人文学部国際社会
コミュニケーション学科4年)

留学生との交流を 通して、世界の風を 地域に届ける

国際連携推進センター

互いの文化を尊重した 大豊町との交流

国際連携推進センターでは、地域の活性化に役立つ交流事業も行っています。その取組を代表するのが、中山間地の大豊町での地域交流です。

「大豊町から7年前、留学生に町内の庵谷(おのたに)地区の祭りに参加してもらえないかと依頼されたのがきっかけです。庵谷地区では、高齢化によって祭りの開催が難しくなっています」

庵谷地区は、大豊町梶ヶ森標高1400mの中腹に位置する住民約80人の集落です。地域にある星神社では毎年、祭りが行われていたが、過疎・高齢化のため神輿の担ぎ手が少なくなっています。そこで、留学生に声がかかったというわけです。留学生にとっても日本の伝統行事に触れることができる絶好の機会というところで、高知大学のほか、県内他大学の留学生も含めた高知地域留学生交流推進会議の行事として、秋の大祭と冬の神事に参加するようになりました。

「招いてくださる地域の方は、とてもこまやかな心遣いをしてくださいました。例えばイスラム教では1日5回、お祈りをしなければなりません。そこで祭の最中に頭合いを見計らっ



大豊町庵谷地区
星神社秋季大祭
神輿をかつく留学生



正月神事「百手」 弓を引く留学生

て、イスラム教徒の学生をお祈りができる静かな場所まで車で送迎してくれました。互いの文化を尊重しているからこそ心遣いだと思えます。祭りへの参加が縁で、庵谷地区との交流は大きく広がっています。昨年からは始まった留学生対象の「高知文化事情」の授業では大豊町の文化を取り上げ、神社、寺、食文化、歴史などについて、



大豊町庵谷地区星神社秋季大祭神社での拝礼



大豊町庵谷地区星神社正月神事「百手」



お話を聞きました

教育研究部 人文社会科学系
人文社会科学部門/助教
国際連携推進センター 国際プロジェクト部門専任教員

EVA GARCIA del SAZ (エバガルシア デル サズ)

スペイン生まれ。土佐和紙を学ぶために高知県を訪れていた際に大病を患い、高知医科大学(現・高知大学医学部)に入院したことが縁で、高知医科大学で研究に従事。専門は解剖学、組織学、国際ボランティア医療活動。2006年4月より現職。「カルチャーカフェは、英語の授業ではないので気軽に来てくださいね。英語があまり得意でなくても、異国の文化に触れるのはとても面白いですよ」

「いま、『開かれた大学』とよく言われるのですが、カルチャーカフェは本当に学内外に広く開かれた感じにしたいと思っています。留学生と地域の方々が気軽に話ができる場、リラックスして交流できる機会にしたいと思っています」

「地域にとっては留学生という若い力が入ってくることで、活気が生まれ大変喜ばれています。留学生はせっかく日本に来てくれるわけなので、日本の歴史、高知の歴史を学ぶ機会を作ってあげたいですね」



大豊町庵谷地区星神社秋季大祭で
地元料理を味わいながら交流



「英語の授業はありますが、ネイティブが話す英語を聞く機会はあまりないので、カルチャーカフェにはほぼ毎回、参加しています。今回のテーマは、以前ボランティアとしてオーストラリアのタスマニアに行っていたことがあるので、その当時を思い出して懐かしく感じました。カルチャーカフェは留学生や地域の人と垣根を超えて交流できるのが素敵ですし、これから留学を考える学生の情報交換の場としても有効だと思います。」

オーストラリアの歴史について紹介しました。オーストラリアは長い歴史を持つ先住民のアボリジニがおり、200年ほどの歴史しか持たない植民地時代の入植者との間に摩擦が生じて、ある種の緊張状態にあるという、複雑な歴史についてプレゼンテーションしました。準備は大変でしたが、プレゼンするのは好きですね。英語も上手ですから(笑)。

カルチャーカフェってこんなところ

第13回カルチャーカフェは、7月20日に行われました。紹介したのはオーストラリア。この春、協定校のオーストラリア・クイーンズランド大学からの留学生、マット・ワイズさんによる30分間のプレゼンテーションの後、オーストラリア発祥のデザート「ラミントン」を楽しみながら、約30人の参加者による歓談が行われました。

「トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム」 第5期派遣留学生に採択

「官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム」第5期派遣留学生(多様性人材コース)に、農学部農学科3年の上市光之さんが採択されました。上市さんの留学計画は、「動物園と水族館が一体となった展示施設を四国に作りたい」という夢の実現のために、アメリカの動物園や水族館などで約5か月間インターシップとボランティア活動を行うというものです。



第9回 高知大学演習林 トレイルランニングレース 2016

7月3日(日)、香美市土佐山田町上穴内の農林海洋科学部嶺北フィールド(演習林)において、第9回高知大学演習林トレイルランニングレース2016を開催しました。250名の定員が2日程度で募集終了となる程の人気レースで、本年度は、東京や県内外からのランナー265名が、ミドルクラス(30km)とショートクラス(15km)に参加し、健脚を競いました。



基金「高知大学さきがけ志金」ご寄附のお願い

● 高知大学さきがけ志金の目的

高知大学の理念である『地域社会及び国際社会に貢献しうる人材育成と学問、研究の充実・発展を推進する』ため、これらに対する事業の支援とその環境の更なる整備・充実に努めることを目的とします。

● 募金の対象者

本志金の趣旨に賛同いただける個人・法人・団体等

● ご協力をお願いする金額

個人による寄附金につきましては、1口1千円を単位とします。法人・団体等による寄附金につきましては、1口1万円を単位とします。(本志金の趣旨をご理解いただき、なにとぞ複数口でのご協力をお願いします。)

● 高知大学さきがけ志金ホームページ

インターネットのウェブ検索サイトで“高知大学さきがけ志金”とご入力いただき、検索をお願いいたします。

高知大学さきがけ志金 検索

お問い合わせ先
〒780-8520 高知市曙町2-5-1
高知大学さきがけ志金担当 TEL:088-844-8100
FAX:088-844-8738 E-mail:sj02@kochi-u.ac.jp

平成28年度 高知大学国際交流基金助成事業 決定通知書交付式を挙行

高知大学では、学内外の皆様よりご寄附をいただいた「高知大学国際交流基金」や大学全体の資金運用益を利用して平成19年度から国際交流に関する助成金の交付を行っております。本年度は、「外国人留学生への奨学事業(一般型、新戦略型)」、「外国へ留学する学生への奨学事業」、「大学院生の研究発表を目的とする海外派遣事業」の3件の事業において、多くの申請の中から合計21名(うちH27年度からの継続1件)を採択しました。

7月20日(水)には平成28年度高知大学国際交流基金助成事業決定通知書交付式を行い、脇口学長からは基金の有効な活用を期待するメッセージが送られました。また、助成金の交付が決定した日本人学生からは「海外留学によって語学力を向上させ、視野を広げていきたい」と抱負が述べられました。



国際連携推進センター主催 ガーナ大学オウス学長(本学修了生)による講演会

9月5日(月)にガーナ大学のエベネザ・オドゥロ・オウス学長が高知大学を表敬訪問し、朝倉キャンパス内メディアホールにて「ガーナ大学における国際交流」について講演されました。本講演には、ガーナ出身の留学生2名や夏休みを利用して来日中の高校生20名、また民間の国際交流団体ほか62名が参加しました。

ガーナ大学は1948年に創立された、学生数が4万人を超える総合大学で、2015年9月に高知大学と国際交流協定を締結しました。オウス学長は、本学大学院農学研究科の修了生であり、母国のガーナ大学で教員になられてからも、高知県観光大使就任やガーナよさこいの開催などガーナと高知との交流の窓口となり活躍されてきました。

講演の中でオウス学長は、「今後も世界中の大学および企業や財団等とパートナーシップを結び、世界に通じる研究大学を目指してスタッフの能力開発や学生の交換留学プログラムの充実、教育の協力対策等に力を入れていく」との意向を示されました。最後の質疑応答では、大学構内に併設されている野口記念医学研究所での研究内容、奨学金、サポートの必要な学生に対する対応等の有意義な意見交換がなされました。



学会賞受賞者等紹介 平成28年6月～8月までの教職員が受賞したものを紹介させていただきます。

平成27年度 日本水環境学会技術賞を受賞

自然科学系農学部 藤原拓教授らが開発した「オキシデーションディッチ法における二点DO制御システム」に対して、平成27年度日本水環境学会技術賞が授与されました。

平成28年6月8日に行われた日本水環境学会第36回通常総会で、水環境の保全と創造に寄与する優れた技術と認められ表彰されました。

自然科学系農学部
藤原 拓 教授



日本食品保蔵科学会論文賞受賞

教育研究部自然科学系農学部 河野俊夫教授、同部門 村井正之教授、本学大学院農学専攻1年の上向井美佐さん、同専攻1年の柏野由加里さんらの研究グループが行った「近赤外マッピングスキャンによる食用卵の個別消費期限推定法に関する研究」が日本食品保蔵科学会論文賞を受賞しました。



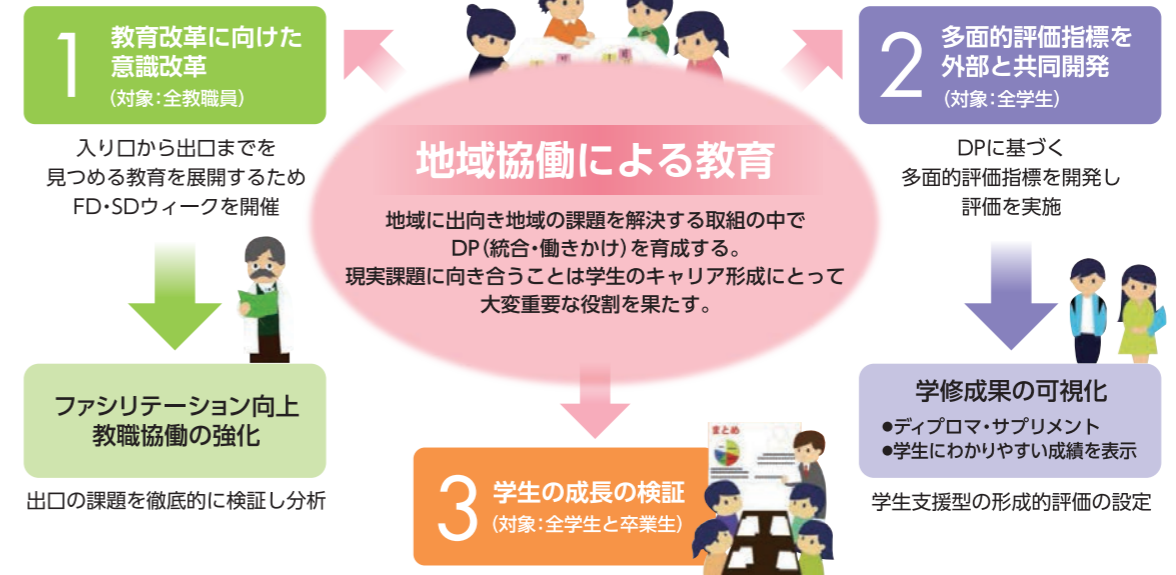
自然科学系農学部
河野 俊夫 教授



自然科学系農学部
村井 正之 教授

文部科学省 「大学教育再生加速プログラム(AP)」に採択

この度、本学の教育改革の取組計画が、文部科学省の平成28年度大学教育再生加速プログラム(AP)「テーマV卒業時における質保証の取組の強化」に採択されました。(補助期間平成28～31年度)申請件数116件に対して採択率は19件であり、本学は採択率16%の難関を突破することができました。この事業は、入口(入学)から出口(卒業)までの質保証を伴った、先進的な取組を行う大学等を支援することを目的として文部科学省が実施するものです。本学の取組は、「地域協働による教育」の展開とそれによる学生の育成を中心とした「教職員の意識改革」「多面的評価指標の開発」「学生の成長の検証」を行っていくことを目的としており、今後「地域活性化の中核的拠点」のモデルとなることをめざします。



高知大学生が「第63回よさこい祭り」に出場

南国高知の夏を彩る「よさこい祭り」が、8月9日の前夜祭を皮切りに、10・11日の本祭、12日の後夜祭と全国大会が開催され、高知大学生チームを含め、県庁、市役所チームなど総勢205チーム、約1万8000人の踊り子が、高知市内16会場で舞い踊りました。

第63回目の今年、高知大学生チームは、総勢9チーム(青ノ春、学生団体コンパスよさこいチーム叢雲、医学部よさこいチーム醫、南溟寮、よさこいエイサーサークル南風、高知学生 旅鯨、日章踊り子隊、よさこいチーム炎、学生よさこいチーム 粋恋)が、各オリジナル5要素の地方車(チームを先導するトラック)、音楽、衣装、鳴子、踊りを披露しました。

全国に散らばったOB・OG中心のチーム、今年発足の新チーム、医学部や農学部の個性あふれるチーム、伝統のエコなブルーシートの地方車と寮歌を入れた男子寮チーム、高知大学沖繩県人のエイサー太鼓とのコラボチーム、県内の学生連合チーム等が、エネルギーにそれぞれの思いを込めて若い力と輝きを放ちました。



第60回 西日本 学生弓道選手権大会等で 男子個人優勝

本学弓道部は、5月21日～22日に岡山県ジップアリーナ岡山で開催された「第60回西日本学生弓道選手権大会」において、男子個人では、予選皆中(4射4中)で通過し、決勝射詰め6段目以降は八寸的で10段目的中(10射10中)により、築山龍太郎さん(人文学部2年生)が男子個人優勝しました。男子団体では、48射35中で予選通過し、決勝リーグで各校1中差を争う中、6位(55校中)となりました。

また、7月9日～10日に高知県立弓道場で開催された「第67回四国地区大学総合体育大会」弓道の部で、男子個人決勝は、射詰め6段目から八寸的になり、9段目で決着がつき、西崎和人さん(教育学部2年)が優勝、築山龍太郎さん(人文学部2年)が準優勝しました。



▲西崎 和人さん ▲築山 龍太郎さん

※射詰めとは、1人1射ずつ矢を放ち、外した者は退場、的中した者は次の段に進み、また1射を行う。最後まで残った者が優勝となる競技方法のこと。基本は直径36cm的(十二寸、1寸は約3cm)を用いるが、射詰め6段目以降は決着をつけるための小さく、直径24cmの八寸的を使用する。